

リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立東山中学校（鳥取県）

【取組内容①】 企業探究を通して自己の生き方を考えるプロジェクト（1 / 2）

1. 本実践の背景とねらい

学習指導要領には、「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と情報活用能力について、言語能力、問題発見・解決能力と並ぶ学習の基盤となる資質・能力の一つと位置付け、「教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」と、各学校のカリキュラム・マネジメントの実現を通じて育成することと示されている。本校でも、学校教育目標の達成に向けて設定した資質・能力（「自分も相手も大切にする力」「論理的に考える力」「解決に向けて行動する力」「テクノロジーを使いこなす力」）の獲得を目指して、キャリア教育の充実と情報活用能力の育成を一体的に図っていくこととした。

具体的には、コロナ禍で実施困難であった従来型の職場体験学習を探究的な学習に変更し、6つの企業からのMission「企業の製品価値を向上させよ（メタバース）」「米子市の魅力を伝え、地域を活性化させる番組を制作せよ（放送）」「みんなに愛される米子のお土産を開発せよ（販売）」「SDGsを意識した住宅を創造せよ（建築）」「中学生ならではの取組で地域を活性化せよ（地域）」「年長組が楽しくルールを学べるゲームを創造せよ（保育）」の解決に向けて、1人1台端末を探究の各プロセスで効果的に活用するPBL型の実践を行った。今回は、下記の3点を主なねらいとして、民間企業と連携して取り組んだ実践について報告する。

- ①個別最適な学び・協働的な学びを意識したPBL型の実践であること
- ②自己の学びと将来とのつながりを考えること（キャリア教育）
- ③本校設定の資質・能力を育成・向上させること（特に情報活用能力）

2. 実践内容

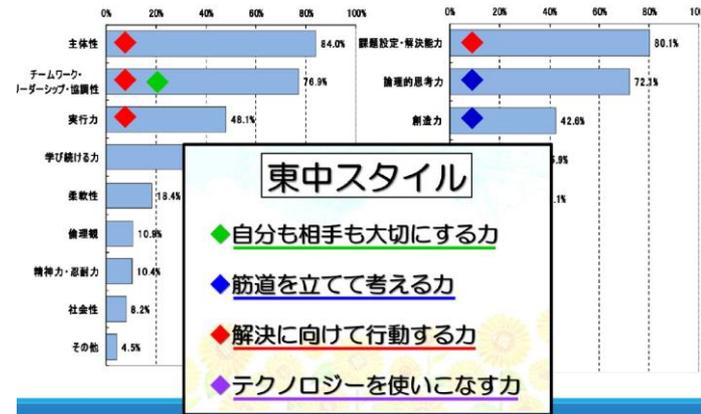
2-1. 課題の設定

単元の導入時に、動画「20XX in Society 5.0～デジタルで創る、私たちの未来～（経団連）」の視聴を通して、これから生きていく社会は、目まぐるしい速さでデジタル技術やAIが進歩し、生活や働き方など多方面にわたりイノベーションが進むSociety5.0であると同時に、SDGsなどの現代的諸課題の解決に協働していく共生社会であることを意識させた。その上で、「採用者の観点から、大卒者に特に期待する資質・能力・知識のアンケート結果2022（経団連）」を提示し、本校設定の資質・能力と関連させながら、本単元で身に付けたい力を生徒に自己設定させた。さらに、生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じたMissionを上記で示した6つの中から選択させ、グループを設定した。

2-2. 情報の収集

民間企業からのメタバース体験や企業説明を通して、Missionのイメージを具体化し、端末を使用して情報検索・収集を行った。具体的には、アンケートの実施やGoogleスライドの共同編集機能を活用して、役割分担・記録・情報共有をした。また、課題解決のアイデアをより良くするために、生徒自ら学校外の専門家を見つけて連絡し、アイデアに指導助言がもらえるようにオンラインミーティングを計画した。

価値を生むのに必要な力 ÷ 東中スタイル



連携6企業の紹介

